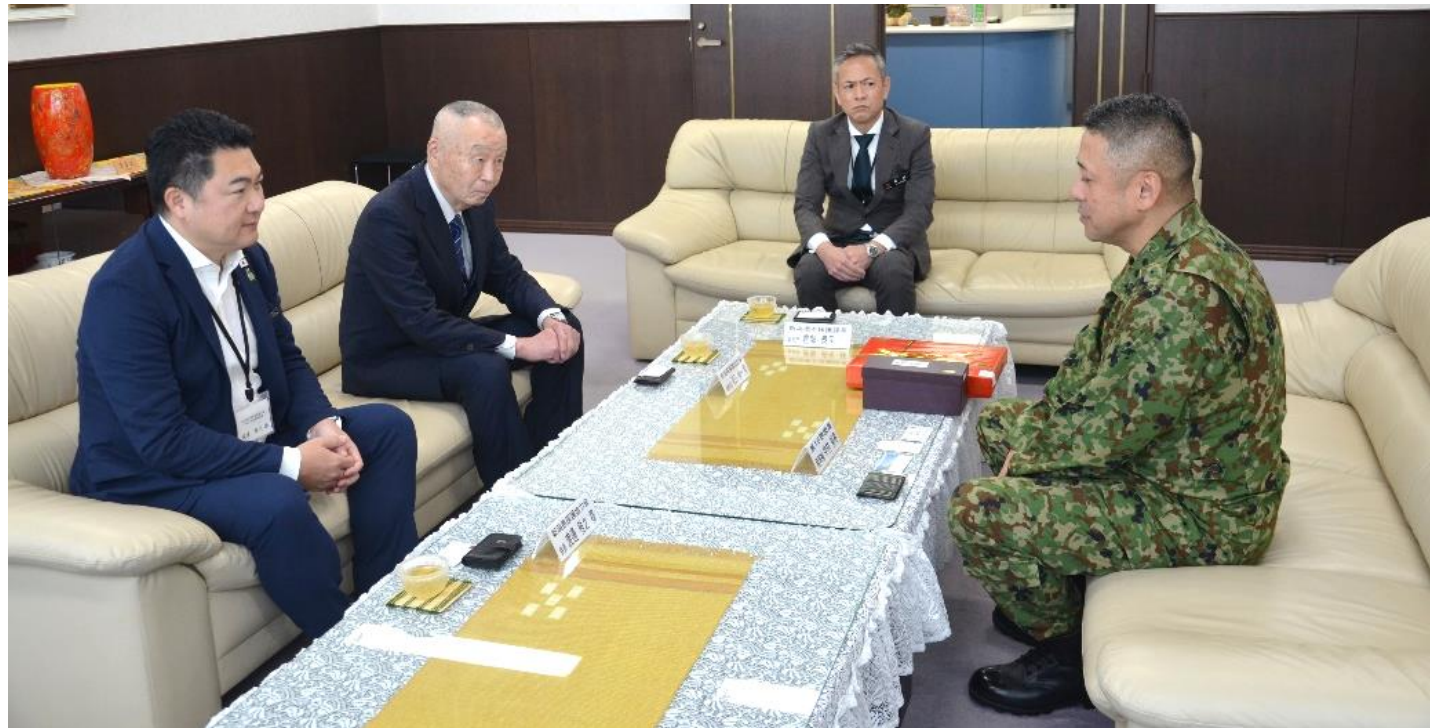


# 新潟県自衛隊援護協力会部隊研修支援



新潟地本（本部長 1陸佐 大倉正義）は、2月4日（火）から6日（木）の間、新潟県自衛隊援護協力会（会長 渡邊雅之氏）による陸上自衛隊那覇駐屯地及び航空自衛隊那覇基地研修を支援しました。本研修では、第15旅団長及び那覇基地司令をそれぞれ表敬し、駐屯地、基地の概要説明を受けるとともに、各施設及び戦闘機の見学等研修を行いました。





那覇駐屯地の概要説明では、同駐屯地広報から第101不発弾処理隊についての説明を受け、部隊発足から現在に至るまでに約38,000件もの不発弾を処理していることや、今でも年間約600発の不発弾を処理していることが説明され、参加者は沖縄戦の爪痕が未だに残っていることを改めて感じていました。



那覇基地の研修では、新潟県長岡市出身の同基地内航空団に所属するパイロット隊員より、第9航空団の任務やF-15Jについて説明を受けました。中でも昨年度は999回ものスクランブル発進があったことが説明され、参加者はその回数多さに驚き、現在の沖縄における情勢を認識させられた様子でした。

今回の研修で、参加者からは「新潟から遠く離れた沖縄の空で頑張っている同郷者の姿に感銘を受けた」「不発弾の処理件数やスクランブル発進回数が想像以上に多く、ニュース等では知ることのない生の沖縄の現状を知ることができた」との感想が寄せられました。

新潟地本は、今後も新潟県自衛隊援護協力会を支援し、更なる防衛に対する理解促進を図るとともに、企業との連携及び就職援護基盤の強化を行っていきます。